【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	相知小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上はじめ全ての取組については、外部講師の招聘、全員による研究授業を通して、研究内容等の共通理解を図り、深め、実践していくことができた。今後も、次年度へ向けた更なる取組の深化を推進し進める。 業務改善については、業務内容の精選、見直し、校務の整理を行うことで、次年度へ向けての「業務改善」の視点からの取組を行ってきた。次年度も引き続き職員の高識づけを行っていく。 今後もふるさとに誇りをもつ児童を育てていくために、保護者、地域、学校のつながりをより緊密なものにしていく。
2 学校教育目標	<p>保護者や地域と共に創る！ やる気 やさしさ いっぱい えがおの花く相知小 ONE TEAM!!</p> <p>～ おちついて うでくんで ちえをだしあう 相知っ子！ キラ・にこ・きび・はき・どん・！！ ～</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和教育、平和教育、開発的生徒指導の工夫と実施 主体的、対話的で深い学びに向けた教育活動 特別支援教育の充実

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				最終評価		
評価項目	重点取組内容	成長指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	○交流活動の充実による思考力の向上	○児童に学習意識調査を行い「交流活動をする中で学習がよくなる」という取組に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上。	・児童が主体的に問題を解決できるように、交流活動の前に目的や、考えを整理する観点を明確に示しておく。	A	・交流活動の目的に加え、思考の流れを踏まえた観点や手順の設定をしたことにより、交流活動を通して、安心感をもって意見を述べていくと回答した児童が93%増加した。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が「自他の生命を尊重する。他者への思いやりや公益性、倫理観や正義感、感動するのなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして、全校人権集会を年1回、なかよしタイムを年7回実施する。	A	・児童の「友だちと協力している」の項目は92%、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の項目は94%が肯定的な回答であった。役割を与え、任せる取り組みが実り、達成感を児童が感じられ、保護者の方にも行事や教育の管理の観点から成長ぶりを感じていただけているようである。	こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事業対応等)について組織的対応ができていると回答する職員を90%以上にする。	・いじめの認知・認知に対するマニュアルをもとに共通理解の周知徹底と見直しを行う。 ・いじめが起きないような学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。	A	・生活アンケートや事業への対応を通して、児童の見取り方や児童間のトラブルへの対処の協議をすることができた。 ・職員では100%、保護者では7%がいじめの組織的対応ができていると答え、指導の積み重ねが観ね伝わっているようである。	生徒指導
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)を80%以上にする。	・各種体験活動では、児童生徒に活動の目標設定、活動の見通しと学びの振り返りを行う。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、82%だった。今年度より6名が実現したようこそ先見指導を通し、職業の中身ややりがい以外にも、様々な立場の働き方に関わることができることができた。	指導教諭
●健康・体づくり	○「望ましい生活習慣の形成」	○規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、昼休みに外遊びをするなど、体力増進に努めようとする児童を60%以上にする。	・運動場の決められた遊び場所や道具の使い方についての指導を行う。 ・雨の日は学年前で体育館を開放する。 ・外遊びを奨励する放送を行う。 ・スポーツやダンス等、体育的行事への積極的な呼びかけを行う。	A	・外遊びを奨励する放送を行ったり、体育的行事を通して児童年での運動の機会を増やしたりして、運動習慣の改善に努めた。本校の教育活動アンケートにおいて、運動や外遊びに関する質問への肯定的な回答の割合が82%だった。	からた部
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒割合80%以上 ○朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。	・給食だよりや保護だよりで朝食摂取の効果を掲載し、家庭への啓発を行う。 ・体調不良で来室した児童へ朝食摂取の働きかけを行い、必要があれば指導する。	A	・給食だよりを通して、朝食摂取の効果や必要性について家庭や児童への啓発を行うことができた。 ・朝食摂取率が96%と目標値に達している。今後は朝食の大切さとともに、栄養バランスのとれた朝食についても取り入れて指導していく。	栄養教諭 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間4.5時間以内を遵守する。 ・全職員で業務改善推進を推進し、ポトムアップ方式での取り組みを推進していく。	B	・現在、月平均時間外在校等時間については、おおむね目標を達成しており、随分と改善できている。しかし、依然として目標を達成できていない職員は若干いる。今後も引き続き職員に応じた働きかけを行っていく必要があると思われる。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の体制づくりと支援の充実	○対象児童の共通理解や職員間の情報共有を図り、支援体制を整えるが、よりよい支援の充実を図る。	・適宜、ケース会議を開き、職員間で支援体制の共通理解を図る。 ・新規入籍に向けて、保育園・中学校と連絡を密にしたり、保護者見学や説明会したりする機会を設ける。	A	・組織的に支援体制を整えることができ、支援を受ける児童が徐々に落ち着いて学校生活を送ることができるようになった。 ・新規入籍や中学校進学に向けて、保護者さんや保育園・中学校と連絡を密にし、改年度や再来年度の見直しを早めに持つことができた。	特別支援〆
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成長指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	
○保護者・地域との連携	○育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実	○生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動をさらに充実させることを通じて、地域の方との交流を図り、ふるさと相知に誇りをもつ児童80%以上を目指す。	・体験活動については、例年以上の遠征取組と目標とが、併せて内容の充実にも取り組み、ふるさと相知に誇りをもつ児童を育てる。	A	・教員の「体験活動を通して、地域の方との交流をはかることができる」ということは今年度も90%を超えている。また、児童の「体験活動では、地域の方とかわりながら熱心に活動しているか」という点も90%が肯定的に回答した。年度末には今年度の取組を踏まえて、内容の充実と共に、精選を図る。	
●…異共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	<p>・学力向上はじめ全ての取組については、外部講師の招聘、全員による研究授業を通して、研究内容等の共通理解を図り、深め、実践していくことができた。次年度は、今年度以上に更に内容を絞り、深化を推進し進める。</p> <p>・業務改善については、業務内容の精選、見直し、校務の整理を行うことで、次年度へ向けての「業務改善」の視点からの取組を行ってきた。次年度も引き続き職員の高識づけを行っていく。</p> <p>・今後もふるさとに誇りをもつ児童を育てていくために、保護者、地域、学校のつながりをより緊密なものにするともに、内容の充実、精選を図る。</p>					
5 総合評価・次年度への展望	<p>・学力向上をはじめ全ての取組については、外部講師の招聘、全員による研究授業を通して、研究内容等の共通理解を図り、深め、実践していくことができた。次年度は、今年度以上に更に内容を絞り、深化を推進し進める。</p> <p>・業務改善については、業務内容の精選、見直し、校務の整理を行うことで、次年度へ向けての「業務改善」の視点からの取組を行ってきた。次年度も引き続き職員の高識づけを行っていく。</p> <p>・今後もふるさとに誇りをもつ児童を育てていくために、保護者、地域、学校のつながりをより緊密なものにするともに、内容の充実、精選を図る。</p>					